

自然から学ぶ姿勢を

理学部長 西川 恭 治

今日ほど、基礎科学の重要性が叫ばれているときはない。諸君が入学した理学部は、自然の仕組みについて教育・研究を行う、最も基礎的な学問を進めているところである。近代科学の父と言われるガリレイが、経験と観測に基づいて自然の法則を解き明かす



理学部全景

「自然科学」を創始して以来、凡そ四〇〇年の年月が経ち、この間に自然現象に対する理解は著しく深まった。そして今日では、宇宙創生の原理や生命の起源にまで研究が及ぶに至っている。その蓄積された知識を利用して、我々の生活水準は著しく向上してきた。それと共に、新たな課題が人類の前に現れている。原水爆に代表される大量殺戮兵器はもとより、地球環境の大規模な破壊、エネルギー資源の枯渇、高度情報化に伴う私的情報のデータ化等、地球規模での解決を迫られている問題が次々と現れてきている。このような課題に対処するには、改めて自然科学の原点に立ち返り、自然の摂理について、より広い視野からより深く考究することが何よりも大切である。これが今日、基礎科学に課せられた基本的な課題であるといえよう。

来るべき二一世紀において、社会の様々な断面において基礎科学の立場から貢献することが期待されている諸君は、このことを深く認識して、自然の前に謙虚な姿勢で学問に取り組みたいことを願うものである。

多様な価値観の中で

理学部 4 学年

松 田 誠 司

まず、新入生諸君には、歓迎の意を表する。さて、君達がこれから何年間かを過ごすであろう大学という場は多様な価値観の錯綜した、実に摩訶不思議なところである。専攻がそれぞれ異なるのは勿論、そこで人々が目指しているものは、実に様々で、そこにあるものの考え方や価値観は千差万別である。更に目を転じれば、部活動、サークル活動等に膨大な力を注ぎ込み、将来その道に進んでいく人々もいる。そこに存在する価値観もまた多様である。今春、東京大学出身のプロ野球選手が誕生したことは記憶に新しい。大学は四年で卒業するという価値観すら普遍ではありえず、各々の責任において、あらゆる価値観が存在し得るのである。だからといって、甘えや無責任は許されるべきではない。君達は、これから何年間かで、多くを学んでいくであろうし、私自身、その中途である。世間や流行に流されない価値観をもって、真実を見極めていきたいものである。